



さんぽく地区
まちづくり
通信

no.43

さんぽく

未来を育てる一歩は、特別なことではなく、皆さんのほんの小さな関わりから始まるのかもしれない。

大切な記憶となることでしょう。地域に関わり、それは単なる行事参加だけでなく「自分のまちに誇りを持つ」きっかけになります。大人からの「関心」や「ひと声」は、子どもの心に残る大切な記憶となることでしょう。

その一方で、小・中学校や山北緑の少年団、その他さまざまな団体の活動を通じて、子どもたちが地域の人とふれあい山北の良さを肌で感じる機会を守られ続けています。

これまで山北を支えてきたのは、自然とともに暮らしを築いてきた地域の人々の力です。いま、このまちでは人口減少と高齢化が進み、次の世代へとバトンをどうつないでいくかが大きな課題となっています。

地域の未来を、
みんなで育てるために

く子どもたちの山北の学び

まちづくり通信編集部



2025.12.15 発行号



山北緑の少年団

団長：東海林 直仁さん

世代を超える地域の学び

小学4年生から6年生の子どもたちが、植林など森林保全活動や自然体験など様々な活動をしています。地域の大人が指導員として共に活動していますが、団長として関わる東海林さんにインタビューをしました。

「あの頃の自分と今の子どもたち」

この活動を「やってよかった！」
と思う瞬間を教えてください。

緑の少年団は、自然の中で子どもたち自身が主体となり、考え、探求し、学んでいく活動です。時折、その気持ちが前のめりになり、行き過ぎてしまうこともあります。一生懸命に取り組んでくれる姿は見ていて嬉しいものです。

その中で「自然の大切さ」や「山北の魅力」を感じとってくれたとき、この活動を「やってよかった！」と思います。

自分が子どもだった頃と今の
子どもたちで「違い」はありますか。

しっかりしてる子が多いこと、自然環境への向き合い方が違うところ。

自分が子どもの頃は、友だちと近くの川へ遊びに行くことはごく当たり前のことでした。今の子どもたちは、自分の頃のように身近な自然と触れ合う機会がとても少ないと感じます。活動をしていても子どもたちには「初めて」の体験が多いのです。

けれども、自分では当たり前すぎて気にも留めないような内容も、今の子どもたちにとっては貴重な体験として繊細な気付きをしてくれるため「なるほど!!」とその都度、感心させられています。

Profile

しょうじ なおと 村上市中継出身。現在、村上市森林組合に勤務。平成30年に村上市山北緑の少年団へ指導員として携わり、令和2年12月から団長となる。緑の少年団の活動で林業に対する指導も行う。



まちづくり協議会 委員実践活動



山北地区まちづくり協議会の委員は、山北地区住民であればどなたでもなれます。委員になって仲間と一緒にアイデアをかたちにしてみませんか？

『小さな庭づくり-R7』

・植栽5月26日*年間を通して管理
山北支所駐車場脇に昨年植えた、植物の管理や生育に合わせた移植、小石の配置、新たな植栽作業など齋藤靖委員を中心に『小さな庭づくり』を継続しています。新しく花を植える植栽活動には委員以外の方にも呼びかけ、賑やかに活動を行いました。

『笹川流れ海の子プロジェクト ビーチコーミング&マリンアート』

・8月22日
*蓬莱海岸と交流の館八幡
地域の海に興味を持ってほしいと、砂浜漂着物採取とそれを使った工作、ジェルキャンドル作りを企画しました。事前に青木貴志委員に『砂浜でみられる貝殻や植物の話』を聞き、その後、海岸に出て小学生たちは思い思いに活動を楽しみました。



『第2回さんぽくスポフェス』

・10月13日
*山北総合体育館
体育の日イベント。委員実践活動は入口付近のおやつコーナーでイベントを盛り上げました。



『山北まち協オリジナル ポロシャツ制作』

・8月~10月末
*デザイン~販売まで
大滝寿集落支援員デザインで、希望者を募り、オリジナルのポロシャツを作りました。

【編集・発行】
山北地区まちづくり協議会 事務局
TEL 0254-77-3111
s.shinko-chiiki@city.murakami.lg.jp
〒959-3993
村上市府屋232番地（村上市山北支所内）



先生たちが語る、子どもたちの山北の学び

『未来へつなぐ教室』

～山北の学びと地域～

すがい まさし
須貝 将士先生

新発田出身*全学年の理科を担当しているが、実はスポーツも万能な先生



中学校
③ 年生、理科担任

村上市立山北中学校

「合唱」ですね。合唱が上手なんですよ。春の新任式に合唱で出迎えてくれたのには驚きました。こんな温かな歓迎があるなんて。秋の創立30周年文化祭では生徒の合唱の他に、PTAの合唱もあったのですが、夜の集まりの参加率もよく練習も熱心なので、親御さんたちの合唱もとても上手なんです。生徒の合唱は休み時間を使って練習するので、嫌がる場合が多いのに山北中はそういったこともない。当たり前のようにある「合唱」に驚きました。



山北に来て感じた「嬉しかった」「驚いた」事がありますか？

先生方が着用するさんぽく小ポロシャツの胸には子どもたちが大好きな「カナヘビ」がポイントに



村上市立さんぽく小学校



小学校
④ 年生担任

いよべ りょういち
伊与部 龍一先生
神林出身*前職は予備校講師で様々な経験を積んだのち、教師の道に

小学校
③ 年生担任

そが つかさ
曾我 幹先生
豊栄出身*国技相撲を学ぶため青森で高校生活を送った相撲を愛する先生



小学校の地域を学ぶ「さんぽく科」で感じた事はなんですか？

伊与部先生：4年生は笹川流れ遊覧船、吉祥清水、しな布、後半には鮭のコド漁などが控えています。こんなに魅力あふれるところはないのではないかと思っています。前職では、夜遅くまでずっと働いていたので、離職したとき空の青さと小さな虫の生命力に感動したことがあります。山北の様々な体験で地域を深掘りする楽しさに目覚め、『いままでも何で知らなかったの?』と、自分が一番楽しんでいます。



学校・地域・家庭で力を合わせていけることはどんなことでしょうか？

伊与部先生：学校、地域、家庭のそれぞれには役割の限界があつて、3つが協力し合って教育していく事が理想だと思います。(山北はそれができていると思います)。学校と地域の距離感が近く、地域の方との話しやすさは山北の魅力になっていると思います。PTA主催の保護者との親睦会も、なくなっているところも感じられます。



地域(地元)の産業や文化を学ぶ子どもたちに何か変化を感じますか？

曾我先生：大毎で学んだ山菜料理を家族に2週続けて作ってあげたとか、漁港の仕事を知って感じた家族へのありがたみなど、地域の話題を話してくれる機会が増えました。子どもたちに「山北ありがとう」の気持ちが芽生えているように感じます。

曾我先生：3年生は山菜料理学習、塩づくり、寝屋漁港見学と日本国太鼓の習得に取り組んでいます。さまざまな学びを子どもたちと一緒にしていますが、山北の伝統文化は多くの方々の営みによって守られていることを実感し、山北への愛が増しました(笑)。山北、さんぽく小学校、子どもたちは宝物です。



これからの子どもたちに必要だと思う力はありますか？

曾我先生：「コミュニケーション力」だと思います。そこに全部入っているように思います。友達との距離感や察する力など(非言語型コミュニケーション力)をもてると思います。



3年生の「山菜料理学習」では、山菜(みず)の下処理からしっかりと学んでいます。



4年生の「羽越しな布」を学ぶ時間では、しな布についての学びや機織り体験で、将来しな布に関わりたいという嬉しい感想が多数あったそうです。



これからの子どもたちに必要だと思う力はありますか？

「粘り強さ」でしょうか。どんな状況でも動じることなく、目標に向かって努力できる力です。一瞬で人間は変われないですから。ひたすら継続して粘り強く続ける力が必要だと思います。



山北の景色クリアファイルを販売する生徒たち



山北地区まちづくり協議会との連携により、3年生自ら企画、撮影、デザインそして、さんぽく祭での販売と「地域貢献」や「産業」を体験した「山北のお土産開発プロジェクト」

～こころ一皿、普段着のおもてなし～ 959-3941 新潟県村上市基47

民家レストラン 風が吹く仲

NAKA NAGI

TEL 0254-77-3759【営業日金・土・日】※冬季休業

パン工房・marusa

TEL (0254) 77-2350